驛遞局認可

THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

明治二十年二月五日

定價金四錢

女學雜誌

第五十號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

〔女學叢誌〕●美術論（文學士坪内雄藏君）●〔中外新報〕十數件●〔對譯〕泰西の箴諺○勿れ●〔列女傳〕林榮子の傳●〔雜記〕○女子の教育（前續の號き）（矢田部良吉君）女子の教育説（第四十七號の續き）婦人の心得●〔新作物語〕海上の奇偶●〔家政要報〕衣服の汚れを洗剝す法○皮裂の妙藥○白米小賣相場●〔伽草〕家にハ裏口あり○數學問題○考へ物の題○前々號數學問題の答式○前々號考へ物の答●〔寄書〕世の進歩に後るゝ勿れ○身體を健康にすへし

女學叢誌

美術論（前號の續き）

文學士　坪内雄藏君演述
木山　艮筆記

第一小説ハ人の心目を娯ましむるを以て目的となすといへる議論ハ餘りに漠然たるいひ分にハ非ざる歟何となれば世の中に人の心を娯ましむるもの何ぞ必しも小説のみにや限るべき隅田堤の景色を眺むるも尚ほ心目を娯ましむるに非ずやその他心目を娯しましむるをもて目的となすものハいと多かるべく啻に小説のみに限る事かハ左れバ此論ハ彼のバサリといへる的にこそ均しかるらめ。第二に小説ハ勸善懲惡世を諷し俗を嘲けるを以て目的となすといへるハ果て當れる論なるや勸善懲惡ハ道徳家の目的なり教育家の目的なり小説ハ勸善懲惡をもて目的とすといはゞ教育家道徳家の目的を均く教育家道徳家の道具となり將た奴隷とならざるを得ずて小説の位痛く下れり果して勸善懲惡ハ小説の目的なりといはんにハ勸善懲惡の主意よく至りたらば完全無缺の小説にして我國の馬琴英吉利のリチヤードソンの作りたるが如きハ完全無缺こよなき小説とこそいふべけれ然るを世の人ハ馬琴の作れるハ荒唐なりリチヤードソンのハ道徳に偏れりといへりされバ勸善懲惡のみをもて小説の目的となすにハ足ず語を換へて之をいはゞ彼の勸懲ハ第二の目的にてぞある別に第一の目的なくんバあらざるなり菊五郎が加賀鳶に扮ちたる時に階子乗をなせる又ハ團十郎の華山を勸めたる時に繪をかきたるが如きハ俳優の本分ならずとて或る學士ハ之を罵りたれど余ハたゞに之を罵らざるのみならず却て之をバ褒むるなり何となればその本分たる華山加賀鳶の藝をバよく勸め得て扨て後に繪を畫き階子を乗れるにて第一の本分を勸め得たる後その餘力もてなしたる藝なるが故に褒むるなり然るを純帳芝居の俳優などいまだその藝至らざるものゝ斯る事なしたらんにハ余ハ太く之を責むと欲するなりそハ末を眼目となして本を忘れ幹をばすてゝ枝葉の事をなせるが故なればなり論者の所謂勸懲を以て小説の目的とすとハ或ハまた之にや比ぶべき勸懲といへば顯ハに聞ゆる所よくて彼の楊弓の的のドンと音していと勇ま

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

しきが如しといへどこれまた眞正の目的ならず。第三に小說ハ人情風俗を寫すを以て目的とすといへる議論ハ四の中にて最もよき議論の如く思はるれど余ハいまだ之を以て充分なる審美學の上の目的なりとハいはず余ハ美術の目的をこそ說くあれ單へに小說の目的をのみ說くにハあらざるなり小說ハ能く人情風俗を寫す事ありとするも彼の音樂建築のごときハ如何にして之を寫すべき左れば人情風俗を寫すを以て目的とすとハ小說に於てこそいふを得べけれど完全なる美術の目的なりとハいふべからず斯くてハ一方にのミ當はまりて他の美術にハ當はまらざるが故に今少し廣き解釋あらんにハ余ハその說を取らんと欲するなり扨又人情風俗を寫すを以て小說の目的なりといへる論者の中にてもいと心得ぬ事をいふものあり乃ち娘節用或ハ爲永の人情本ハ良からずとて之らを排斥するものあり何の故に然るにや猥褻なりイヤミありといへるにや左れども爲永の人情本ハ能く人情風俗を寫したれバ論者の所謂小說の目的にハよく叶ひたらずや左らば何故と問はゞ野卑にして高尚ならずといはん然バ前の議論とハ乖りて高尚なる風俗を寫すをもて小說の目的なりといはざるを得ず左らバ如何なれば斯く高尚なる事を寫さゞるを得ざるにやと問はゞ論者ハ人の氣格を高尚になすをもて目的とすといへる第四の目的にぞ逭るべき左らば人情風俗ハ目的にハ非ざるが如かれどもそハ暫く措き人の氣格を高尚になすを以て小說の目的なりとせばこれ果して彼のカチと音する的なるや否乞ふこれを詳らにせん(以上次號)

◎中外新報

○御發輦　聖上　皇后宮　兩陛下にハ一月三十日京都に於て孝明天皇御式年祭を行はせ給ふが爲め前號にも記し奉つりしごとく去る廿五日御發輦ありぬるの時皇后宮ハ西洋服を召させ御上衣のため衣ハ伺ひがたかりしが裳ハ青鐵色にして長き御上衣ハ鼠色に薄鼠色の毛縁とりたるを召させ茶褐色の羽毛もて飾りたる帽を冠らせ女官及び各大臣の夫人がたの中從來の服を着けられたるハ二三名にして餘ハみな西洋服にて扈從なし奉つらる左て兩陛下にハ海上恙あらせず翌廿六日の午後よそ京都へ御着輦あらせたりける

○詠進の歌　御歌會始め詠進の歌前號の續きの中婦人の歌二三首を左に掲げろの他ハいと多けれど餘紙なきがゆゑに茲にハ略して載せず乃ち預撰歌のうちにて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

華族女學校學監正六位源歌子上

朝日影うつりそめたるかさにのみ涙はありともみゆる池かな

權掌侍正七位源道子上

大空の雲のかけのみうこきけり朝しつかなるいけ水のうへに

宮內省雇鶴久子上

あしたつのちよの影みる池水は涙のたちゐものとけかりけり

○女子教育法の取調　婦人の教育をいふもの〻中急進家もあり漸進家もあり或は守舊黨もありてその說さま〴〵なるがこれは我が邦に限らず歐米に於ても婦人の教育論は種々に別れ一定する所なければ苟にも女子の教育に心あるものは其摸樣に注目する事肝要なりされば余輩はその報道に怠らざらん事と勉めたるが今聞くところに據れば文部省にては歐米各國の女子教育に關する制度の取調べに着手せられ略ぼ調べ濟となり愈々女子教育法の制定發布も近きにあるべしといへりその教育法といへるは如何なるものなるや知らざれども女子教育の方針を示さる〻ものなるべきにや

○校長たるべき人物　その筋にては公立女學校の校長たるべきものはその人を選ぶべき義なれば品行方正なる老女がよかるべしとありて目下專ら取調べ中なりといふ

○女子の躰操法　文部省にては女子の躰育法によろしきを得せしめんとて專ら取調べ中のよしは嘗て本誌に記載せし事ありしが今また聞くところに據ればいまだ充分に取調べ濟とならざれば當分の內女學校の躰操法には輕躰操乃ち毬投或は鞠投などを採用せしめらる〻事に定められしとかいへり

○伊藤伯爵夫人　には皇后宮京都へ行啓御滯在中御附として去る廿五日出發ありしやに聞く

○婦人慈善會　は來る三月中旬ごろ延遼館を拜借して開會あるべしとて既に會員中にはその出品の製造に着手なりたる向きもこれある由

○プリンス女史　高等女學校の教師米人プリンス女史は學力あるのみならず生徒に對しいと信切にして且つ勉强家なるよしにて授業の餘暇には日本語を學び日本の書籍をも讀み習はる〻などその氣力はなか〳〵日本婦人の及ばざるところなりと聞く

○法主の企劃　本願寺の法主大谷光尊師は全國へ多くの女學校を設立せんとの本願を起され近來は自から說敎なせし跡にて右の設立の主意をのべ信者より應分の淨財を喜捨せん事を望まる〻よしなるが有志者より寄附する金はその都度第一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

銀行に預けおき學校建築の資ともなるべき金額に達したる時はまづ東京に一の女學校を設け追々に各府縣へ及ぼす見込なりといへり女子は男子よりも罪深くて女人の濟度はいとゝ六かしと彌陀も說き給ひしとの聞きたるが斯く學校を設けて女子の敎育の進みたらば女子も男子と同樣になりもき彌陀の御苦勞も減ずる道理あれば信者は應分の御手傳として可なり

○東京學館　京橋區宗十郎町の同館第二分館にては今度更らに女敎員數名を雇ひ入れ婦人に英學數學及び簿記學を敎授することになし昨今女生徒募集中のよし

○深川英語學校、にても今度女子科を設け米人何某氏を雇ひ入れ語學敎授の餘暇を以て毛糸編物をも敎授することになりしよしに聞く

○看護婦敎育所　今度新たに設立したる芝愛宕町の同所は漸く設立の事務も整ひ生徒へ敎授方の規律も定まりたるよしなれば是より追々盛大にいたるべしさて同所へ入學の生徒は二十歲以上三十五歲以下の婦人にて獨りものに限るとのことなり

○淑女會　大隈重信氏の令孃を始めその他數十の令孃がたが淑女會と名づけて去廿九日牛ヶ淵なる矢野文雄氏の宅（卽ち大隈氏の別邸）へ會しいと盛んなる新年宴會を催はされしよし

○光華會　婦人の敎育を改良せん事の目的を以て昨年末日比谷の神宮內へ設立せし光華會といふは創立の日未だ淺かるにも拘はらず貴顯がたの令孃たちが追々多く加入せらるゝよしにて近きに總會を開き會長幹事などの役員を選定するはづなりと聞く

○婦人矯風會　は加盟するもの益々多く目下會員の數は八十餘名となりしよしまた來る八日には麴町一致敎會を借り受け第二回の會議を開き當日は會員の演說などもあるといふ

○尾池よね女史　昨年米國へ留學のため出發せられたる東京產婆學校の幹事尾池女史は目下オークランド府にありて專ら產科を研究中なるが休暇日たりとも外出するは稀れにして非常に勉強せらるゝよし

○衣服改良會　京橋彌左衛門町にその事務所を設けある同會は日本服を廢して歐米風になさんとの目的にて會員たるものには積金をなさしめ廉價に且つ容易く洋服を造り得らるゝ方法を設けて創立せしが追々入會するものあれど男子のみ多かれば今度更らに婦人の會員を募集するはづなりといふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○東京婦人教育談會　小石川および牛込區邊に住はるゝ婦人がたハ今度題名のごとき會を設立せられ會場ハ當分小石川私立幼稚園と定め毎月第二土曜日に相會して脩身、家事經濟、衛生、歴史、理化學その他婦人に要用なる事に拘はる談話をなしまた講師を聘して講談を乞ふの規則なりといふ去月十五日にハその第一會を開き外山氏を聘したるに出席ありて我邦女子ハ我邦の男子に比べて決て劣るものにあらず今の女子の大に男子に劣るがごとく見ゆるハ教育の足らざる故なる事を説き併せて今日改進主義を取る婦人の殊に注意せずて叶はぬ事どもを示され西洋の風俗につき誤見を抱きそれが爲め不都合を生せざる樣勉めて品行方正なる西洋婦人と交際して眞の西洋の風俗を見聞すべき事を説かれたる由東洋學藝雜誌に見ゆ

○贈答廢止會　前項の婦人教育談會に於て外山正一氏ハ講談の序に我邦從來の風習にて虚禮に屬する贈答ハ野蠻時代の遺風なれば今日の文明世界に存すべからず之を廢するにハ題號の會を設くべしと説かれたるに會員中贊成の婦人多く必ず入會したしとて姓名書を出されたりと同雜誌に見ゆ

○袈裟御前貞操譚　ハ故人縫山の著にして今度銀座三丁目の共隆社より翻刻發兌せり中々の美本なり

◎學藝一斑

○植物學一斑（第四十七號の續き）

植物にハ同化作用といふことあり乃ち葉を以て炭酸を吸ひ入れ根を以て水を吸ひ上げ葉に於て大陽の光線に遇ひ水と炭酸と相混じて澱粉を造りまたその時酸素を出す作用をいふ扨て斯くのごとくして造りたる澱粉ハ光線に遇はざる時溶解して細胞に至り植物の全體に行き渡るものなりこの澱粉ハ更らに新しき細胞を造りて植物の成長するに從ひ消費せられまた葉實中にあるものゝ如く再び固形体となりて將來の用に供せらるのみならず澱粉ハ元形質の力により油質脂肪質或ハ糖分に變ずるなり

溶解すべき澱粉は植物の幹或ハ莖を下れる途中にて硝酸鹽などのごとき窒素を含める種々の鹽類と混同し元形作用により窒素を拔き取り硫黄質及び澱粉を組成するものと共に蛋白質を造れり

この蛋白質ハ元形質の必要なる食物にて之を造るにハ植物の緑色の部に於て大陽の光線に由り澱粉を造る事なり故に陰にてハ元形質を養ふ事能ハず植物枯死すべし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎對譯

(甲)(一)悪き(二)仲間ニ(三)於て(四)より(五)よく(六)獨テ(七)あれ●(乙)(一)小供(二)而て(三)馬鹿ハ(四)眞實ヲ(五)話そ●(丙)(一)運命ニ(二)於て(三)依頼する(四)莫(五)併ながら(六)行ひニ(七)於て

(勿の語譯)(一)高き(二)而(三)鋭く(四)ある(五)べく(六)汝の(七)聲チ(八)許そ(九)勿れ。。●(一)夫等(二)夫ハ(三)總て(四)齢(五)而(六)總て(七)國(八)の(九)裁決ニ(十)於て(十一)女(十二)の(十三)婀娜(十四)の(十五)一ツ(十六)組立る(十七)所ノ(十八)夫等ノ(十九)低き(二十)而して(廿一)和かなる(廿二)音調ヲ(廿三)煉磨せよ

MAXIMS & PROVERBS.
泰西の箴諺

(甲) Better be alone than in bad company.
(五) (七) (六) (四) (三) (一) (二)
〔意譯〕良からぬ友と交はるより寧ろ獨り居るよ

(乙) Children and fools speak the truth.
(一) (二) (三) (五) (四)
〔意譯〕子供と馬鹿ハ眞實を云ふ

(丙) Depend not on fortune, but on conduct.
(三) (四) (二) (一) (五) (七) (六)
〔意譯〕運命に依頼せずして行爲に依るべし

DON'T (NASUBEKARAZU).
Affectionately addressed to Womankind.

DON'T permit your vice to be high and
(九) (八) (六) (七) (五) (四) (一) (二)
shrill. Cultivate those low and soft tones which in
(三) (廿三) (一) (十八)(十九) (二十) (廿一) (廿二) (二)(十七) (十)
the judgment of all ages and all countries constit-
(九) (八)(三)(四)(五)(六) (七) (十六)
ute one of the charms of woman.
(十五)(十四) (十三) (十二) (十一)

◎列女傳

○林榮子の傳

多くの生徒を敎へ導く學校の敎員ハいかめしく嚴なるところとやさしく愛憐むこゝろばへとを兼ねて生徒のかしこみもし懷きもすべくするが良敎師のおもなひなるべけれバ全國數万の學校の中にハ敎師と生徒とのあひだに美しく愛たき物語のいと多あるべき道理なるに如何なるゆゑにやさる事のふつよ聞えぬハ珍しげなき事と人も耳とゞめぬ慣習ようけれるにやなか〳〵に怪しう思懸ぬことの往々聞ゆるぞいとうれたきやさるハ敎へ導くに便よきことゝて多くの生徒を同列にして誰にハかくいひ敎へ渠にハしか〳〵と諭すなど人をわけ筋を異にして敎ふるならひとハ殊別なれば受學ぶ者の意に入る所も自然ひとつにて多くのなかに抽でゝ敎師と敬ひかしこみなつき悦ぶといふやうの事もなきにやあらむ或人ハむかしの師弟の間のむつみハ今の世にハ絶果にたり敎ふる人ハなにがしの給を得るがために習ひ得たる業を賣る花主よあへることゝちし學ぶ者ハ價を定めて買ひ受るやうの思ひをなせバ固より敬崇の情などのあるべき道理なくされば今日此校に就學するもの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も他に月謝の少くて懇ろに敎ふる人ありと聞けば明日はゝや其方に移りゆくが多かるにあらずやといへり實に數多ある敎員生徒のうちにはさる類ひもおらめど悉皆さぞとさし定めむも亦苛酷かるべしとにもかくにも此あひだに美しき物語の稀ならば是を取たてゝいと殊勝にやさしき心ばへと稱むもわしくはあらじとてつい記それ紀の國和歌山の鍛冶屋町に林音五郎とていと富有なる人あり娘榮子といへるは心ざま温順にて父母によく仕へ絕てひとたびも其詞に背けるとなき孝女なればば父母の慈しみもなみ〳〵ならず絲竹のみち舞ひ踊るわざなどは斯る世にはせでもありなむ手かき物よみ世の中の形勢と心得をらむ程には女とてもをさ〳〵學ばではえあるまじき事ぞかしとて近き甚五兵衞町に私學校ひらきて物敎ふる山村熊助氏のもとに通はせ讀書筆算なにくれと敎へと受さするにもとより沈靜たる性なれば斯る筋に心入るゝともいと深くて三年ばかりの程はいとよく習ひ得たりしかば父母も悅ぶとおほかたならで此那智のを山よりも高き惠み熊野のうらよりも深き恩をなゆめ忘れそやといひしなるべし斯て日を歷るほどに山村氏はふと風のこゝちとて打臥しゝが老の生命の限りなればにや只苟且のとと思ひしにはやう變りて漸次にやつれゆけ

ば榮子は氏のいふまゝに敎授のことを助けて幼き生徒をよく敎へたて業はてゝ歸るべきをも其まゝとまりて看護に怠らず飮粥すゝめ藥あたゝむるとなどは更にもいはず弱り果て起臥すら心に委せずなりては手づとり腰を抱えていたはるばかりか汚れたる物のとりあつかひさへ毫厭はしきさま見せずかい取てするを最初の程は山村氏もなか〳〵物むづかしう耻ぢひてありしが終には他人よりも此少女のまめ〳〵しく用にものなれたるに打委するやうになりて稀に傍にあらねばさふ〳〵しく思ふ迄になりつゝ人して呼迎へなどして淚ながらに無らむ後のことどもまでつぶ〳〵といひ續けつあまたある生徒の敎授にいづれと厚くいづれと薄くと隔ては物せざりしかども師弟の義理を辨へしとはおろか斯ばかりに賴もしうせらるゝは如何なる緣のさきの世に親となり子となりておりしとて斯はあらじ今ひとたび病おこたらばこれが報いせむ事もあらめど其たのみさへ覺束なきが返々悲しうさきて我もの顏に呼たてて斯う賴み參らするを父母の疎ましう怪しがる老の僻わざと憎み賜ふらもうしろめたうなど追に心弱くてくど〳〵とくり返すを耳にも入れず多くみ敎へうけし人々のうちには朝夕よかく仕へまほしく思さるゝも有るべけれど妾をのみから召し

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

まつわし賜へば却て恨めしう口惜と思ふ人もあるめりされバ他人とてひとつらにこゝろ淺しとのみハなどかハ定むべきなどいひ直そこころばへの愛たきに山村氏ハ詞さへ出ず咽のへりたるなごりの息づかひの苦しげなりしハ臨終のしるしにて遂にはかなく見果しかば榮子ハ枕頭あとべに伏まろびて消えかへり歎くさまハ多くの生徒の悲しみをたゞおのれ獨に引うけしやうにて他の袖の時雨も物かずならずぞ見えける斯くてのち野邊おくりしはて日數すぎて開校せしときより敎員何某と助けてありしまゝに生徒の敎授をしつゝ退校してハ雨の日風ある夕べも厭ハず先師の墓所に詣づること一日もおこたらず七年の去年の春如月バかりに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

願はくは花の下にて追善の筵ひらかむとて父にもこと謀りていと愛たき法會とりおこなひつゝ生徒のあるかぎり知るも知らぬも集へたるは苔の下にも如何嬉しと悦びうけふれけむ此榮子の心ばへ美はしきは父母の敎へざまのよきと山村氏の惠み深きとによるならめどまた其性質のなみ〳〵ならず愛たきなるべし此事告おこせたる人の筆ずさびよや末に一首をかき添へたり

吹おくる南の風にかをるなり遠のはやしの梅のひともと

◎雑記

○女子の敎育(前續の號き)　矢田部良吉君演述

また事實上より觀察するに高等敎育を受けたる男子即ち政治家醫者工學者若くは物理學者等は必ずしも己れと同樣なる高等敎育を受けたる女子を娶るとを好むのといふにもあらず政治家は廟堂に在ては天下の大事を議するもその家にありて家族と爐に對しまたは食卓を同じうする事の間にあつては子供の敎育の事か美術上のことゝ慈善のことか夜會のことゝ乃至は演劇のことなどを互ひに話し合ふを以て一家團欒の娛樂となすものにして政治上の討論のごときは決して好むところにあらざるがゆゑに政治家の細君はその良人とひとしき敎育をうくるにおよばざるなり醫者もまた然り朝起るより夜寢るまで解剖のこと病理のこと藥學のことなどを語りて家族と樂しむものにあらずして一家の娛樂はおのづから格別のものなりまた學者といへども終日その硏究するところの學理を說くを以て樂しみとなさず或は家族とゝもに博覽會にゆきて陳列品のことに就て語ることもあり子供にチャリネーの曲馬を見物させてこれを評することもあり或は家族とゝもに上野向嶋等に花觀に出かけることもあるなれば家族と相樂しむ事柄はおのづから特別のものなるを以てその細君がインテグラルだのヂフレンシャルだのと七六かしき理屈をのべたてることは餘り好まざるべしこの點より觀るも女子の敎育と男子の敎育とその趣きを同じうすべからざることは已に明かなるにあらずやたゞに然るのみならず女子は人の妻となりたるのちは家事經濟兒童の家庭敎育等を以てみづから任ずべきは勿論にしてその他舅姑との關係より親類緣者との交際或は良人との交際のごときもまたその擔任すべきものなれば女子は特別の敎育を要するものにして昔よりこの事に就て論じたるものも多かりしがその時代の主義とするところは依て各々論點を異にせ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り今日の人も右の事柄は女子の教育上に必要なることを知れる様なれども今日女學校のありさまを見るにいまだ右の事柄に關する教育法を實行するものなしこれ余が最も遺憾とするところなり

さてまた夫婦の間柄ははじめに少しのべたるがごとく儒教主義即ち女大學主義によれば天の高く地の卑きがごとく主人と奴隷とのごとくその間に甚だしき相違ありしも今日にいたりてはこの主義は漸く廢れて夫婦は一體なり夫の短所は妻これを補ひ妻の短所は夫これを補ふて迭に相戻ることなく夫の働きの區域と妻の働らきの區域とはおのづから殊別にして互ひに相補佐して一家を治むるものなれば夫かならずしも尊きにあらず妻のならずしも卑きにあらずとの主義が西洋より舶來して日本社會に行はれんとするの傾きもあるなれば今日は儒教主義より西洋主義に移らんとするの時代にして純然たる儒教主義にもあらずまた純然たる西洋主義にもあらざれば女子の教育を改良することに付きては甚だ困難を覺ゆるなり或る人の説に據れば我が國女子の教育は悉くこれを西洋の婦人に委ぬる方が最もよろしからん而してこれを實施せんには耶蘇教の女宣教師をして全國に無數の女學校を設立せしむるに

如かずとのことなるが余は嘗てこの人が或る女學校の卒業式において演説したるを聞しにその略に曰く食物衣服家具等より交際の仕方にいたるまで總て西洋風に改むべし老爺さん老媼さん流の舊弊に從ふべからず開明の世に生れたる女子は一社を設けてその勢力を強くし勉めて舊慣をうち破るべしと我が國の女子は概して温和柔弱に過ぎたればこの位の急進説を聞かせても左ほど大害はあるまじけれどもこの人の説と老爺さん老媼さんなどが聞しならば嘸驚きて膽を潰すとなるべしそは兎も角も今日この説を實行したらんには不都合なること多かるべしと思はるゝなり女子が西洋風の食物を調理せんとするも曾て不案内のことゆゑ容易に手を下すこと能はず西洋の家具を以て室内を装飾せんとするもこれまた不案内のことゆゑ急には整ふること能はざるありまた西洋服を拵へるにも切地は如何なるものを用ふべきか色合は何様のものがよろしきか万事万端不案内なれば容易に裁縫に取りかゝること出來ざるべし良しや辛うして一領の衣服を仕立あぐるも色取なり仕立なり孰れもはなはだ拙くしてこれを着たる姿は恰も萬歳の出來そこなひ見たやうなる奇妙奇體なものにはあらざるかまた耶蘇教の女宣教師に女子の教育方を依頼することゝせん

七十一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

か數十年の〻ちにいたりてハ我が國の婦人が漸々耶蘇教ニ化することもあらんかなれどもいまだ輙くこれに化すべき樣もあらざれバ宣教師等が俄かニ急劇の手段を取て全國に數千の女學校を設立そるごとき迂濶なることハよもなさゞるべしこれに由てこれを觀れば或る人の急進說ハ幾んどいふべくして行ふべからざる一種の僻說たるを免かれざるなり

また或る論者の言に曰く我が國開明の進路ハ業に已に要洋流ニ定まりて男子の教育も西洋主義に基きたれば女子の教育もまた西洋主義に據らざるべからざることハ今更らいふまでもなきことなれども儒教主義の教育法もいまだ悉く廢棄すべきものにあらざれバその善良なるところハ之を存しおくべし且つ女子ハ家にあるときも他人に婚嫁したるのちも舊習を墨守する父母舅姑の間に立ざるを得ざれば數十年の〻ちハ兎も角も今日にありてハこれらの長者に對して特別の心得なかるべからず然るに若し西洋主義の一方に偏してこの心得なきに於てハ家族の平和親睦を破りて家内の諸事ハ總て圓滑ならずして常に風波の絕ゆることなきにいたらんとこの說のごときハ稍々穩當の樣に思はるゝを以て余ハ直ちにこれを贊成せんと欲するなり(以下次號)

○女子教育說(第四十七號の續き)ガゼット新聞抄譯

扨また理學、化學、性學などのごときハ實用の上に於て學びたる半をも用ふる事なかるべし之を要するに女子の專門科に於て學び得るところのものハ終身實用に適するもの甚だ少なければこれに適應するもの〻みを敎ふるをよろしとす語學ニ至りてハ汎く各國の言語に通ずる事ハ今日我々の輕むずべからずして他日益々有益を增すべければ幸ニこれに長せるものハその蘊奧を極むべし只その才なきものハ後來尤も需用あるべき一國の語のみに心を用ふべし畢竟專ら外國語を學ばんよりハ寧ろ我本國の語學ニ熟達そるを要するを貴ぶなり妾が知るところの一女ありよく英佛および伊國の語に通ずるも日耳曼文にいたりてハ淺近の尺牘といへどもその意味文体に誤謬あるを免かれずまた宗敎に至りてハ經典中の美談妙諺および頌歌に熟達そる事ハ甚だ好すべし女子にして信敎なきハ猶ほ花の芳香なきがごとし敎師たるものもまた經典に活用するを主とし徒らに字句の講釋をなすに止まらずその身の經歷せし事實に比照して敎ふるをよろしとすされども國中神を信ずる良敎師ハ甚だ少なし世の敎師たるもの特に神と信じて頑固なるものあり或ハ眞神ある事を信せざるものありくの兩者とも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女子教育の上に甚だしき害ありとす頑固なるものはその子弟をして多くは僞信者たらしめ無信者は議論偏頗にして修身の本を知らず故に良結果を得る事能はざるなり今の女子高等學校はたゞに智識擴張の一途に偏より身を脩め心を齊ふるの暇なし昔時學校の目的はさよく德性の教育を主として思慮を費すこと少なし女子の心を勞すること過度なるの害は概して男子よりも甚だしとす今や超衆の譽れを得て兩親師傅に誇るを是れ勤め學問の上達にのみ汲々として德行の如何を顧みざるもの〻ごとし豈に嘆かはしき事ならずや德行は學術の如く試驗するを得べきものにあらず事に當て自から發露し良行美德を存するものは世人の賞揚るところとなるなり然るに高等學校にては事實の起るを待つて始めて德行を說くべからず故に印刷せる修身論を研究し學の進むに從ひ徃々化して書蠹となり漸く上りて女秀才の稱を得るに過ずして誠の令孃良妻となるを得るもの實に稀れなり方今の學制に依て學ぶものは多くの修業と勞志とを費しはじめて學び得べきなり若しこれを改良せばその學科も或は今日の半にして足らんその餘の日數を以て有用の科目を學び得べし而してその本國の文學及び作文等に費その時間は却て今日に倍するを得べしこの兩科はともに女子の德性を發育高尙ならしむるに必要にして殊に溫良練達博愛の性を具ふる師傅として訓導せしむること最も緊要なりとす女子をして不急の科目を學ぶに換へて子女を教育するに必要の學科を學ばしむべしこの學は女子の欠くべからざるの義務なり即ち人を教ふるの術なりこれは學年の最も末期に於て學ばしむべきなりおよそ女子の務むべきことは何なるやといはんに一家の妻たるか或はその親類若くは他人の家族を養育するにあらざれば養育院に入りて勞を取るの外に出ざるべし左れば人を訓へ導くの道をも講ぜずんばあらざるなり小兒なき家は甚だ稀れなり小兒を取り扱ふには須らく心力を費すべし何となればこれをよく健全ならしむるのみを以て足れりとすべからずその精神を養ふこと最も緊要なるものなれば小兒のいまだ年を重ねざるに先だちて溫和愛憐の性を育成すべし

（以下次號）

○婦人の心得（對譯欄內勿れの意譯）

高く且つ鋭き聲をいだすべからず年齡の若きと老たるとを問はずまた何れの國にてもやさしく女らしきとなせる所を考がへ溫柔に婦人らしからんが爲め低く且つ和らかなる聲となすことに慣るべし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○海上の奇偶　　　　　　尙來圓主人　譯

第四回　禮のべて否まるゝ身のおきどころ

Theodore Ellison の出發せし時ハ空かき曇りていと鬱々しき冬の日の暮るゝころなりしが一週間ばかりを歷て再び歸り來れる時ハ空も晴れわたりて明がた近き頃なりければ甲板の上に立ちて右方左方見渡すに船の進みと諸共に夜も漸次に明々渡り大陽ハ浪間を分て紅の頭を擡げ動搖ぎ出るがごとく思はれて海路も陸地も輝きわたりたりBertha丸ハ朝風に逆向てMersey河を溯れるにぞ河岸に沿ひたる方にハ桅檣の林をなせる中より高く聳えたる造船所の烟筒より黑煙捲き上り槌もて鐵砧うち鳴す音の朝風に響きて聞え埠頭〳〵にハ山なす貨物に荷馬車もて積み運べる狀態など見るもの每にいと忙はしき世の中なりとぞ思はれける EllisonハEllisonハ斯る有樣を見るにつけても獨こゝろに思ふやう、我が產れつる國ハ斯くも忙はしき景況なるに如何なれバ吾ためにハ爲す事業のあらぬにや夫さへあるに今まで、學校にて物學ぶことを怠り失誤て家に返さるゝ幼童のごとく、運拙くも再び我國に歸り來れることそ悲しけれ、斯く自からに我が身の成ゆく儘に從ひてこの國にや止まらん再び彼の地にや赴かんと思案に暮れたる折から背後より肩に倚りつゝると振りかへり見るにこれなん乙女のClaraなりける「如何だナ、C坊、またEnglandへ歸ッて來たから嬉くハないのチ」といへばClaraハ悲しき聲して「へイ妾ハ最早海ハ嫌ひ……波が慈母さんを取ッて……最早〳〵如何しても船へハ乘りませんヨ、ろして Ellison さん是から二人で何所へ行の、妾ハチ田舍の木があッて花が澤山とある所でチ其所で偶人の家と拵らへて遣りませうヨ「如何してお前ハそんなに小供だらう、ろして幾つにおなりだ「恰どチ十と半ぶんでスがネ人がまざそんなでハあるまいッて「未だろんな齡とハ思ヘれない、是から二人で何所へ往ッて暮すのだの判然ないがチ、まア一番先にお前をChiswickの伯母さんの所へ連れて往く積りだ」と聞よりClaraハ驚きて後の方に飛退りつゝ「彼のPeters伯母さんの許へでスの エ……オ、妾ハ彼所へ往くのハ嫌でございます、何卒彼所へハ連て往かずに置いて下さいまし、妾ハ伯母さんを知ませんが嚴酷人で慈母さんにハ大層慘くした人で…妾ハ彼所へ往くほどなら死むだ方が餘程宜うございます「だがチよくお聞ヨお前ハ彼所へ往んくちやア

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なりませんヨ慈母さんの遺言だから兎も角も伯母さんの許へ連て往て相談して見て萬一伯母さんが世話をして呉ない時ハ二人ハまた何とかしなくッちやアならないから子各點が往ッたの子、子」Claraハ霎時荅もなさず只俯向てありしが

「ヘイ、貴所の宜いやうに如何でも」

「オ、能く辨別ました、夫でこそ宜い娘だ」と譽れバ軈てハClaraハ偶人の頭手足など痛く損じたるを糸もて括り其所邊引きもて遊べる狀のあどけなくて難船の時hatを失ひ船長の渾家が與へたる赤き絹のhandkerchiefもて頭を包みたるぞ一層に愛らしかるEllisonハこの風情を見ながら「眞正に赤坊だヨ併し不多年其靑い眼元で人の心を痛める事だらうヨ」

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

斯くて愈々埠頭に着船したるは朝の八時半過るころなりしがEllison は船長 Evans 夫婦に暇を告げいと大切に仕舞おきたる準備の金の中より五poundsの札(凡そ廿五圓札に當る)一片を引出し心ばかりよなんとさし出そを船長は急ぎ兩手を後になし「何して／＼決してそんなご心配には及ばぬ事、ろの心ざしばかりで充分だ、人は様々それ……」と Ellison の肩越しに指したるを見るに彼の Boyd が苦しさうに呻吟を船室より運び出すなりけり船長は指しつゝ」あんな人こそ魚の餌となれば宜いのに助け甲斐もない熱病で狂人同様是から病院へ送るのだ」と聞て Ellison は近寄ながらこの人こそれと恨めしく思ふからにBoydのいと苦しく呻吟聲は「報だ」／＼とぞ聞えける Claraは Ellison の手を取り「彼方へ往きませう、こんな人を見ないでも宜い、悪らしい人でせう」Ellison は「さうだヨ正實よ」といへど此人の爲にこそろなたは母を失ひたれとはいはざりけり

Ellison は上陸して滊船會社に立寄たりしが London に向て出發なせる急行列車の時刻は午前九時なりければ乗り遲れじと急ぎ Clara の手を引きながらやう／＼にして滊車にうち乗り軈てよ London の Pancras 停車場に着きたりしが早くChiswickに到り Clara の伯母なる Peters 婦人に逢ひ見ずては快よく諾ひて乙女を引き取れるや否ろの人の心も知られず生さき長きClara の身の上も伯母なる人の心一つに定りなん假令あはれと思ふ心なき人たりとも斯く愛らしき大姪の不思議に生命助かりてその母親の臨終の際の言の葉をも備に傳へ聞えたらんよは道がに否みもなさゞるべし左りとて逢ひ見るまでは心元なき事なりかしと頻に心急がれ程なくChiswickに到り此所彼所行つ返りつ終に公園町なる十三番館をぞ尋ね當りぬこの所は Thames河に沿ひLodonより程遠からぬ外郭なれども家並見渡すよ古きもあり新しきもありて貸家など多く恰も田舎町の景色あり彼の十三番館といへるは鐵垣うち廻らし前庭には草木の霜枯れたるまゝにて人の住むべしとも思はれぬまでに荒廢ふりさて Ellison が音なひたるに年とりたる下婢の出來りて戸を開き頻に稀人等を打護りて訝しむ狀あれば Ellisonは名刺取り出でゝ渡しけるにやがて二人を客室にぞ誘ひける室内は湖暗き心地せられて十二月といふ月なるに火爐には火の氣もなくいつとて火焚きたる事なしと見えて爐網は磨きたる儘よ光れり火爐の上に懸りたる金縁の姿見は三十年以前の形なるべし弓形なる窓の傍に小さき 卓 をおき上にはいと古く

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て大なる經典一部あり室の中央に大なる圓き卓ありて寫眞狹の綴目の離れたるが二つあり椅子は金巾もて蔽ひたれど曾て取除したる事なしと思しく一隅なる粗木もて造りガラス戶嵌めたる書籍棚は長く鎖して開かずと見えたるが中には三十年以前のものと思はるゝ宗敎書杯の價廉きのみが並べおり其側には栗の木もて造りたるpianoあれど錠卸したるまゝ明ざるなるべく其上に蠟細工の花あれど塵埃に塗れて花とは見えず總て室內の有樣もても主婦の氣心は容易く知られぬPeters婦人は軈て戶を開きて徐々と入り來りぬ年のころ六十八と思しくて脊高きが黑き衣服を曲れる儘に着なし小さき肩掛をかけいと痩せたる顏に鳶色の紐つきたる帽子を確と締めたる狀は執拗にして嚴酷かる性とぞ知られけるClaraは見るより驚き恐れて後退りなしつゝEllisonの傍に立倚れるも幼心にはまた道理なり(つゞく)

◎家政要報

◎衣服の汚れを洗剝す法　絹布にても木綿ものにても血のつきたる時は一夜土の上におき慈姑を擂擦りておろし血の附きたる所に摺りつけて洗ふときは跡汚點とならずまた絹布に墨つきたる時は飯粒をその上に摺りつけ粘りとるべし奇妙に落つるものなり(本鄕宮田のぶ君報知)

◎皮裂の妙藥　冬時寒氣のころよなりて水仕事などを事とする下女下男の輩が殊に難澁するは皮裂にして世にその妙藥なりとて賞揚するもの甚だ多けれども効驗の著るしきものなきは彼等のためよ甚だ遺憾ある事どもなり然るに小生近ごろ一方を案出してこれを數十人に試用せしに實に豫想の外の良成績を得たり依てその方を普く報道して同症にて難澁するの人を救ひたしその方は

苛性加里	一、〇(十五瓦)
グリスリン	五〇、〇(一号強)
アルコール	三〇、〇(一号)
水	一二〇、〇(四号)

右を混和して少しづゝひゞの切れたる所へぬるべし殊よよろしきは浴上りなりまた顏に塗るよは少し薄くすべし右は甚だ廉價にして僅か五六錢にて一冬塗るほどを得べしと醫科大學御雇敎師ドクトル、ベルッ氏より親切に報せられぬと東京日日新聞に見ゆ

◎白米小賣相場　本月二日改正にて一圓に付(一等米)一斗三升一合(二等)一斗四升四合(三等)一斗四升七合(四等)一斗五升六合(五等)一斗六升二合

七十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○家には裏口あり

夏の夕ぐれに幼きその子が庭前に遊び居たりしがゆくりなく大なる蛇の驚きて穴の中に逃入りたるを見て斯くと母親に告しのばろの子の父これを聞き我が庭の中に蛇の住めるとは安からぬことなりいでや捕へて與れんずとその夜容易く蛇の穴を塞ぐべき装置の罠を造りて掛けれきたりさて明の朝も彼の子が庭前に遊び居たりしにまた蛇の出來りしかば父なる人も斯くと見てやをら罠の糸引きたるに直ちに穴をば塞ぎたり今は蛇の逃入るべき穴なければいざ捕へてんと父なる人の走り寄りたるに圖らざりき蛇は他の穴よりぞ逃入りたるいかに表口のみを塞ぎたりとて家には皆裏口のあるものなるを讀む人尻ぬけの業をな爲せそ(ガセット新聞抄譯)

○數學問題(答は本月廿日まで)

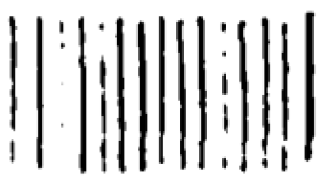
夫婦あり其年齢合せて三十九なり今より十二年過れば其比例は十一と十の如しといふ各年齢幾何(山田宇野次郎君出題)

○考へ物の題(答同上)

(甲)左の歌は本邦の歴史中誰なるや(陸前小野定代君出題)

國のため身をば安部野に曝とも名はのちの世の鏡とはなれ

(乙)妾去る日或る西洋人の許を音づれしに主人戯れに左の問を出して示されたり女學叢誌の餘白を借り讀者の御考察を煩らはすになん(三田牧野から女史)



上の如く十五線あり內六線を引去れば九線殘るはづなるに尙ほ十を殘せといふ如何にせば此答へを得るや

○前々號數學問題の答式

$x=$甲

$2x=$乙

$x\times 2x=a$

$3x=a$

$x=\frac{a}{3}$ 甲

$2x=\frac{2a}{3}$ 乙

答 甲 $\frac{a}{3}$ 乙 $\frac{2a}{3}$

答者

東京三田牧野から女史、同中村かね子、大坂大井太郎、遠州大田えつ、愛知下條實、越後長岡伊藤みき、同齊藤いち

○前々號考へ物の答

(守屋大連)　西京松井ふさ、仙台臼井とく、愛知下條實、越後長岡伊藤みき、岡山高木から、東京笠井しの、同向坂うめ

◎寄書

○世の進歩に後るゝ勿れ　花の家菟道春千代

徒らに過る月日は思はへて花見て暮す春ぞすくなき」と彼の古今集の中に見えはべるが實にさる事にてあべての人が何事をなすにつけても亦來ぬ時を顧みず明日あれば今日はまゝよ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と徒らに時を費しやゝ年たけてのち心つくとも身ハ老て「春の日の光にあたる我なれど頭の雪となるぞ悲しき」と詠ミたりし歌の如く漸く氣のつく頃ハもや頭に白き髪を戴き身ハ衰へて心ハ鈍くなりゆきて今ハ何の用にもたち難く只むねを苦むるのミにて又せん術もあらざるべしされど世の中ハ「昨日といひ今日と暮してあすか川流れて早き月日なりけり」との古歌の其あすかの川水よりも尚はげしき今の世なれバ殊更に勉め励ミて彼の早き流れに追ひ越さん事をこそ願はしかりけれされば我が日の本の女たちにも自ら進取の心を養ひて既に進めるをのこと劣らじと心の駒の歩をすゝめ玉ひて何にまれくれにまれあしきハ棄てよきを取り古きを去りて新なる智識を求め玉はん事を望みまゐらするになも

○身体を健康にすへし　美濃笠松　愛學居士

身體の成長ハ食物に取り身体の健康ハ運動に取ると今より世上を見るに日々の食事が身体の成長に必要なる事ハ誰人も之を知らざる者なけれども身体を健康ならしむる道即ち運動の必要を悟る者ハ甚だ少し殊に婦人に於て然るを見るハ誠に痛ましき限にてろ居士嘗て之を聞く西哲いへる事あり茲に一母あり四歳の子を懷き或時師に問ふて曰く何の時より教育を始むべきと師曰く汝今日迄教育を施さゞりしハ既に四年を遲くせり此兒の顔に汝の笑の照せし時より教育の機會ハ始まれりと答へしとかや教育ハ斯の如く稚き時よりせざる可らず而て此任に當る者ハ誰とかせん抑々今日の女子ハ他日の母なり教育の任既に斯の如し其母にして身体虚弱ならんにハ焉んぞ人の母たる重任を盡すを得んや嗚呼我がシスターよ一ヶ月二三回の郊外遠足ハ勿論晴天にハ常に市中なり公園なり散歩を勉め以て身体の健康を保ち將來日本國民たるに愧ざるの活溌男子を生ずるやう心掛玉はゞ啻に一家の爲のみならず天下後世の幸福また尠なからざるなり

○池水浪靜　在大坂　山田　淳子

くもりなきかゞみの池のいけ水ハ御代の姿をうつすなりけり

○同　菟道　正連

大君のちよ萬つ代やんとふらんさゞ波たゝぬつるかめのいけ

○同　三田　牧野耕女史

しつけさとしるや知らすや水鳥の長閑にねむるこゝの重の池

○同　東京　吉田てる　十二才

賤か家の軒のをさゝも動かねはみ池のなみもしづかなるらん

〔昨年暮までに投寄の玉詠ハ御預りに致して掲載せず〕

七十九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

四森武城編輯
生徒必携
作文獨稽古
鼇頭いろは分字類
精刻木版　全一冊　定價金廿二錢　郵税半額四錢郵券代用す

全生徒必携
作文獨稽古續編
鼇頭証書及ひ諸願届書式
前同斷

曩に作文獨稽古を發刊せし處初學に便利なると日用に調法あるとに因て非常の好評を博したれば玆に又其續編を上梓せり而して此書ハ前篇より一層高尙に進み前篇に漏れたる例題を蒐集し毎題三四章の作例と示し簡より繁に入るの楷梯とあし且つ鼇頭に諸証書類及ひ諸願届等の書式數百章を揚ければ前篇と此書を坐右に備へ置かば何人と雖も日用の事毫も不自由なかるべし

京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地
賣捌所　績文舍

●講談演説集第一冊再版廣告

● 速記叢書 講談演説集第一冊
定價郵税共特別割引拾四錢●郵券代用妨げなし

●目次●緒言●漢字やぶり　帝國文科大學長外山正一君●地球の位置　帝國理科大學教授東京物理學校長寺尾壽君●節酒會を論ず　前統計院大書記官杉亨二君●社會外に道德なし　元老院議官東京學士會院會長前東京大學總理加藤弘之君
右初版賣切候に付久しく御求めに應し離かりし處今回漸く再版出來候に付御注文願ひ奉り候拜具
●附言第四冊（定價郵税共十四錢）ハ三月迄に出版可仕候
發賣●東京日本橋通三丁目丸善書店●東京本町三丁目瑞穗屋●東京馬喰町二丁目石川治兵衛●東京神田淡路町巖々堂

●各種新版書籍新年祝御年玉
非常割引發賣廣告

新らしく開け行く御代の光りぞふみ明り書房の店の初賣にハイ新年芽出度わります御變りなく賑々敷御愛顧なし下さいまして誠に難有存じ升其禮に何がな御年玉を呈上なさバやと千思万考せし折柄添物の替りに安賣直より一層割引して書籍を賣渡して見ろとの花主の仰せにより成程是は好案ならん御不用の品を添物するよりは夫丈の割引にて差上たらんには諸君の御便利も多かるべしと思ひ立ち即ち本日より滿

三十日の間　御年玉割引の大安賣を致し申候固より今度はステキメッポウの大安賣にて算盤はづれ損益見ずッコハ元祖の鼻高の奮發にして他店の出來ぬ安賣に候間（期限後は年玉割引ハ一切不仕）四方八方の花主樣方永當々々澤山の御注文くださりて店の賑ひ彌ましに賣りし利益（ドウダカ）をしめのざり松梅いよ〳〵繁昌仕候依て初賣の口上芽出度かくの如し千新万禧●但し書籍目錄ハ郵券二錢御送附次第直に送呈致します

和漢洋書出版　小説文房具無双大安賣
大阪中之嶋五丁目阿波横町北角
稗史元祖書肆　共益商舍

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税弐錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割増し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替券と本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地
發行所　績文舍
持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野錦五郎

大賣捌
東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂
同　神田區淡路町　巖々堂
同　神田區佐柄木町一番地　東海堂
大坂備後町四丁目　同　岡嶋文店

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY